第３学年国語科学習指導案

日　時　平成１６年１１月１９日（金）
児　童　男　４名　女　５名　計９名
指導者　教　諭　　小野寺　里　美

1　単元名
場面の様子を想ぞうしながら読もう

2　教材名
「ちいちゃんのかげおくり」　　あまん　きみこ

3　教材について
　本教材は、学習指導要領の「Ｃ読むこと」の（１）ウ「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。」カ「書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。」を主なねらいとしている。情景を想像することは、作品をより深く味わい、読みを豊かなものにすることを意図している。
　また、本教材は平和をあつかった最初の作品である。戦争の悲惨さを直接に生々しく訴えた作品ではない。戦争反対を声高に叫ぶ作品でもない。淡々とした文体ゆえに、なおのこと無垢な幼子の透き通るような清い「いのち」を感じさせ、大切なものを奪い去ってしまう戦争の悲惨さを痛感させる。
　本文は、五つのまとまりから構成されており、特に、最後の「それから何十年」かたった町の様子は、現代に生きる我々に平和の大切さと、それを守っていくことの尊さを示している。
　場面の様子を想像しながら読むことは、当時の時代背景を正確に把握しなければできないというわけでは必ずしもない。児童はこの作品を読みながら、ちいちゃんと一緒にかげおくりをしたくなったり、お母さんとはぐれたちいちゃんの姿に涙したり、まさに、ちいちゃんに自分を重ね合わせて読み進めることができると思われる。家族みんなでやったかげおくりと、ちいちゃん一人でやったかげおくりの二つの様子が対照的に描写されている。一言も語らないちいちゃんに代わって、戦争がちいちゃんから奪ったものを読み取ったり、「みんなでのかげおくり」から「ちいちゃんのかげおくり」に変わってしまったことについて考えるなど、ちいちゃんの気持ちを代弁することによって、主題に迫ることができるであろう。

4　児童の実態について
　３年生の児童は、明るく、素直で、自分の考えや思っていることをみんなに聞いてほしいと思っている子が多い。国語の時間には、自分の感想を発言するのに抵抗は少ない。しかし、その考えをまとめて文に書いたり、友達の考えと比べて聞いたりすることが困難な子も見られる。
　読み取りに関しては、文章の全体的な雰囲気から登場人物の感情を想像することができるが、叙述に即して豊かに読み取ることは苦手である。
　児童は戦争に対して、ほとんどイメージを持っていない。もっているとしても、戦車、飛行機などの最近の機械やコンピュータを駆使した戦争のイメージである。戦争による、悲惨さ、怖さなどは当然のことながら、理解することが難しい。そこで、文中の語句については必要最小限に説明を加えていく必要があると思われる。また、当時の写真や、絵などを参考にして視覚的にも理解の手助けとしたい。

5　指導にあたって
　本単元を通して、児童が会話文や様子を表す表現から主人公の気持ちを想像できるような指導が必要である。そこで、発問を大切にし、ちいちゃんの心情に迫らせていきたいと考える。
　本単元では、「選択」させる発問をし、会話文やちいちゃんの様子を表す表現に着目させていく。
　そして、「統合」させる発問を通して、ちいちゃんの置かれている状況や周りの様子の移り変わりをとらえさせたい。さらに、みんなのかげおくりと一人ぼっちでするかげおくりを対比し、題名に込められた平和への願いを考えさせ、思考を深めていきたい。
「類推」させる発問を通して、一人になってしまったときのちいちゃんの気持ちや、家族がくると信じ一人で防空壕の中で眠ったときの心情を考えさせたい。
　学習活動については、会話文やちいちゃんの様子に着目するために、サイドラインを引いて読み取っていく。そして、中心になる文を視写したり、音読したり、さらには、そこから想像できることを書き込んだりすることによって、ちいちゃんの気持ちを豊かに読み取らせることができると思われる。また、友達と考えを交流し、一人一人の感じ方に違いがあることを理解させたい。

6　指導目標
◎場面の様子を叙述に即して想像しながら読み、感想を深める。
〔国語への関心・意欲・態度〕
　・戦争のことを書いた他の物語に興味をもち、読書への意欲をもとうとする。
〔読むこと〕
　・場面の移り変わりや情景・人物の気持ちを、叙述をもとに豊かに想像しながら読む。
〔書くこと〕
　・戦争のことを知っている人に「ちいちゃんのかげおくり」を紹介する目的で紹介文を書く。
〔言語事項〕
　・複合語、体言止め、ダッシュなどの意味を理解し、短い作文で使う。
　・反対の意味を表す言葉を、習った漢字を使って書く。（「言葉の学習」）

○単元の評価規準
〔国語への関心・意欲・態度〕
　・戦争のことを書いた他の物語に興味を持ち、すすんで読書しようとしている。
〔読む能力〕
　・場面の移り変わりや情景・人物の気持ちを、叙述をもとに豊かに想像しながら読んでいる。
〔書く能力〕
　・戦争のことを知っている人に「ちいちゃんのかげおくり」を紹介する目的で紹介文を書いている。
〔言語についての知識・理解・技能〕
　・複合語、体言止め、ダッシュなどの意味を理解し、短い作文で使って書いている。
　・反対の意味を表す言葉を、習った漢字を使って書いている。

7　指導計画と評価規準　（１２時間）

段階	学習活動	評価規準	時間
つかむ	○「ちいちゃんのかげおくり」の全文を読む。 ・感想を書き、発表し合う。	〔国語への関心・意欲・態度〕 ・作品に興味をもって読んでいる。	1
	○感想をもとに、学習課題を作る。	〔読む能力〕 ・学習の見通しをもち、読みのめあてを見つけようとしている。	1
よみとる	○第１場面 ・仲むつまじくかげおくりをする家族の場面を読む。 ・役割音読　・記念写真の意味 家族四人はどんな気持ちでかげおくりをしたのだろう。	〔読む能力〕 ・仲むつまじくかげおくりをする家族の様子や気持ちを読み取っている。	1
	・悪化する戦況を読む。 ・ちいちゃんへの同化 ・かげおくりの場面との比較 お父さんがいなくなって、ちいちゃんたちのくらしはどうかわっただろう。	〔読む能力〕 ・悪化する戦況を読み取っている。	1
	○第２場面 ・空襲の中を逃げまどい、ひとりぼっちになってしまうちいちゃんの場面を読む。 ・空襲の緊迫感の把握 お母さんとはぐれてしまったちいちゃんは、どんなことを思っただろう。	〔読む能力〕 ・空襲の中を逃げまどい、ひとりぼっちになってしまうちいちゃんの様子を読み取り、気持ちを想像している。	1
	○第３場面 ・母や兄の帰りを信じて、待ち続けるちいちゃんの場面を読む。 ちいちゃんは、どんな気持ちでお母さんとお兄ちゃんをまっていたのだろう。	〔読む能力〕 ・母や兄の帰りを信じて、待ち続けるちいちゃんの様子を読み取り、気持ちを想像している。	1 本時
	○第４場面 ・ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や願いを読みとる。 ・第１場面との比較 ちいちゃんはどんな気持ちでひとりでかげおくりをしたのだろう。	〔読む能力〕 ・ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や家族に対する願いを読み取っている。	1
	○第５場面 ・現在の公園の様子と比べながら、ちいちゃんの命が消えていく様子について感想をもつ。	〔読む能力〕 ・現在の公園の様子と比べながら、ちいちゃんの命が消えていく様子について感想を書いている。	1
かんがえる	○この作品の主題について考える。	〔読む能力〕 ・作品の主題について理解している。	1
いかす	○「言葉の学習」をする。 ○戦争をあつかった他の物語を読む。	〔言語についての知識・理解・技能〕 ・反対の意味のこ言葉を習った漢字を使って書いている。 〔読むこと〕 ・戦争・平和について書かれた物語を探して読んでいる。	2
	○戦争のことを知っている人に「ちいちゃんのかげおくり」を紹介する	〔書く能力〕 ・学習したことをもとに、紹介する方法を考え、紹介する文章を書いている。	1

8　本時の指導

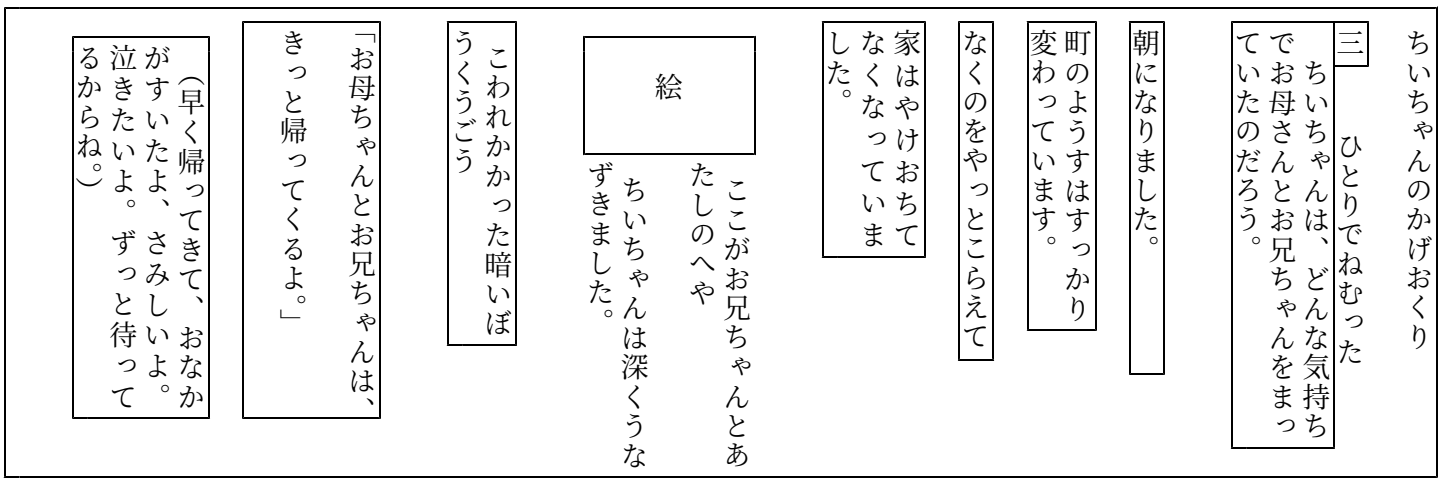
（1）　目標・母や兄の帰りを信じて待ち続けるちいちゃんの様子を読み取り、気持ちを想像する。

（2）　展開

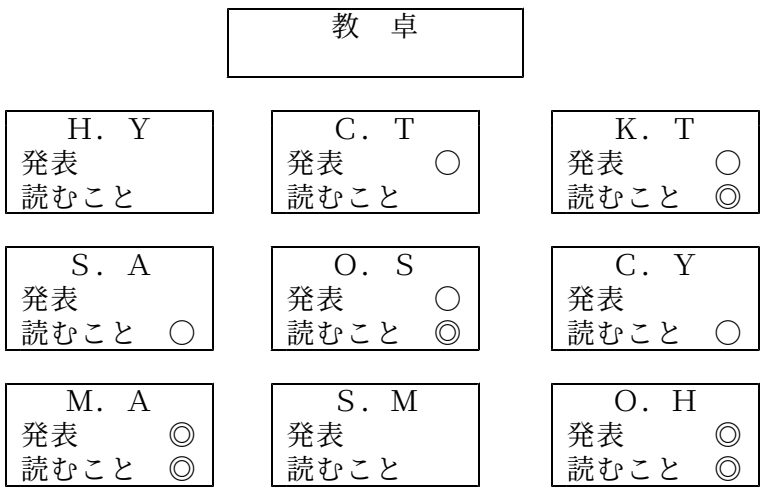
段階	学習活動及び学習場面	主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
つかむ 5分	1　前時までの学習場面を確認する。 2　学習課題を確認する。 3　学習場面を音読する。 （P11　L7～P13　L7）	・前時はどんな場面でしたか。 ちいちゃんは、どんな気持ちでお母さんとお兄ちゃんをまっていたのだろう。	・お母さんとはぐれた。 ・一人になってたくさんの人たちの中で眠った。	・お母さんとはぐれひとりぼっちになってしまったちいちゃんの様子と気持ちを学習したことを確認する。 ・読む視点（ちいちゃんの行動・様子に気をつけて）をあたえる。 ・指名読み	
ふかめる 27分	4　学習場面を読み深めていく。 （P11　L7～P13　L7） ①焼け落ちた家の跡にもどったちいちゃんの気持ちを読みとる。 ②「お母ちゃんと・・・帰ってくるよ。」からちいちゃんの気持ちを読みとる。	・まちの様子はどうなりましたか。（選択） ・誰に声をかけられたのですか。 ・なんて答えたの？ ・どんなふうに答えたのですか。分かるところにサイドラインを引こう。（選択） ・なぜ、泣きたいのですか。（類推） ・なぜ、「おうちのとこ」と答えたのですか。 ・家はどうなっていましたか。 ・お兄ちゃんとお母ちゃんはいたの？ ・おばちゃんはなんと言ったの？ ・その時ちいちゃんはどうしましたか。 ・深くうなずいたとはどのようにしたかやってみよう。 ・ちいちゃんはまた深くうなずいたがなぜ、深くうなずいたのですか。（類推） ・「深く」があるときとないときではどう違いますか。（統合） ・「お母ちゃんと・・・帰ってくるよ。」はだれのことばですか。 ・視写しよう。	・すっかり変わった。 ・どこが家なのか分からないくらい、めちゃめちゃ。 ・はす向かいのおばさん、知っている人。 ・おうちのとこ 「泣くのをやっとこらえて」 ・誰もいない。 ・さびしい。 ・家に帰ればお兄さんもお母さんもいるのだと思っているから。 ・焼け落ちてなくなっていた。 ・いない。来ない。 ・お母ちゃん達、ここに帰ってくるの。 ・深くうなずいた。 （動作化） ・絶対ここに帰ってくると思ってる。 ・絶対にくると信じている。 ・おばちゃんはいなくても大丈夫、お母ちゃんを待っているから。 ・「深く」があると強く思っていることが分かる。 ・ちいちゃんの心の中の言葉。 ・ちいちゃんが自分に言い聞かせている。 （視写）	「すっかりかわっています。」から前夜との違いを読みとらせる。 ・近所だということが分かればいい ・本当は泣きたいが、泣かないで我慢していることをおさえる。 ・「焼ける＋落ちる」複合語を取り上げる。 ・ちいちゃんのことば・動作・周りの様子からといった読みとりの視点を与える。 ・動作化させることでちいちゃんの思いを深く考えさせたい。 ・ちいちゃんは母と兄がもどってくるとかたく信じて待っていることを読みとらせる。 ・ひとりぼっちになったことを押さえる。	

		・どんな気持ちだったかちいちゃんの気持ちを想像しながら音読しよう。	（音読）		
	③ちいちゃんの衰弱とずっと待っている状況を読みとる。	・ちいちゃんはどんな様子ですか。（類推） ・どこから弱っていることが分かりますか。（統合）	・食べ物が少ししかないので、弱っている。元気がない。 ・少し食べました。 ・また少しかじりました。	・母と兄は帰ってくるという強い思いと、帰ってくるはずだという願いをよみとらせる。弱っていくがずっと待つちいちゃんの様子を読み取らせる。 ・「ほしいい」「ざつのう」「ぼう空ごう」については、前もって調べているので確認する程度にする。	
まとめる 13分	5　学習場面をまとめる。 6　今日の学習を振り返る。 7　次時の学習の確認をする。	・防空壕の中にいるちいちゃんの気持ちをワークシートに書こう。 ・まとめの音読をしよう。 ・次時は一人でやったかげおくりについて考えていきます。	・お母ちゃんとお兄ちゃんはきっと帰ってくる。 ・寂しいけど待っている。 ・早く帰ってきてほしいな。 「お母ちゃんとお兄ちゃんはきっと帰ってくるよ。」 （音読）	〔指導を要する児童への手立て〕 防空壕がどんなところか再確認し、心細さをおさえ、「深くうなずく」を動作化させてちいちゃんの気持ちに迫らせる。 ・書いたら発表し合う。 ・ちいちゃんの気持ちを想像しながら音読する。 ・次時は一人だけのかげおくりについて学習することを言う。	〔評価規準〕 母や兄の帰りを信じて待ち続けるちいちゃんの様子と気持ちを想像している。 〔具体の評価規準〕 Ａ：ちいちゃんの様子と気持ちを考えて、母と兄を待つ強い思いを具体的に書いている。 Ｂ：母と兄を待つ思いを書いている。 （ワークシート・発表）

9　板書計画



１０　座席表



〔発表〕
◎　意欲的に自分の考えを発表する。
○　自信があることは進んで発表する。

〔読むこと〕
◎　場面に描かれていることを豊かに読みとることができる。
○　場面に描かれていることを概ね読みとることができる。